

学校教育目標	夢と志をもち、未来を切り拓く子どもの育成	経営理念	学校内外の教育環境を最大限に活用し、次世代を担う人づくりを行うとともに、地域とともに発展する学校を創る。
--------	----------------------	------	--

評価計画					自己評価					学校関係者評価		改善方針		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							10月	3月						
確かな学力の向上	1	自ら学ぶ子どもの育成	主体的に取り組む児童の育成	自己調整の育成に係る実践研究	・児童アンケート「自分が分かっていることは何で分からないことは何かを整理して学習しようとしている。」	肯定的評価: 85%以上	81.4	87.9	103.0%	4	自己調整の育成にかかわる実践研究として、算数の授業を中心とした授業改善や、家庭学習に自己調整学習を取り入れた取り組みを後期に2回行うなど、自分でめあてや目標に向かって計画を立てて学習できるように学校全体で取り組むことができた。特に、家庭学習においては、自分でやる順番や時間を決めたり(低)決められた課題を終えるために自分で1週間分の内容や量を決めたり(高)することは、児童にとって主体的に家庭学習に取り組むことができる取り組みとなった。	A	・主体性を身に付けさせる上で効果的な取り組みである。 ・「めあて」「ふりかえり」を徹底させることでさらに成果が期待できると思う。 ・小学校の時から自分で決めてそれを実践する習慣づけは大変よいことである。	【研究の強化】 ・振り返りに重点をおき、自己調整力を育成する研究を今後も継続して行い、自らが学びを調整することのできる主体性のある学習者の育成を目指して取り組んでいく。 【個に力をつける取組の強化】 ・家庭学習も主体的に取り組めるよう、今年度の取り組みを継続する。 ・コグトレなどの非認知能力を高める取り組みや個別に学習して知識・技能などを高めるタブレットドリルなどを継続して行う。
			基礎学力の定着	個別プリント・ドリルパーク学習の推進	・業者テスト国語(知識・理解) ・業者テスト算数(知識・理解)	80点以上の児童 85%	国85%算88%	国89%算88%	104.0%	4	10月よりコグトレを導入し、非認知能力を高めるための一つの手立てとしている。全国学力テストや各種のテストから、課題を分析し、その上でドリルパークや個別プリントで学力を補充するために取り組んでいる。数値はある程度とれているが、年々低学力(字の形が取れない、九九などが覚えられない)の児童も増えつつあるので、継続して取り組みを進めていきたい。	A	・大規模校にあっていろいろな工夫により成果をあげていることはすばらしい。 ・コグトレの導入は高く評価できる。継続し、児童の非認知能力を高めてほしい。 ・高い目標を達成できている。来年度も個別指導など地道な取り組みを進めてほしい。	
豊かな心の育成	2	思いやりのある子どもの育成	あいさつの定着	児童会、PTA、地域との連携・協力	・児童アンケート(児童自らが設定した「あいさつ目標」の達成率) ・保護者アンケート「本校の児童は、よくあいさつする。」	肯定的評価: 90%以上 肯定的評価: 80%以上	87%	90.5%	104%	3	・第3回のあいさつ運動に向けて、自己のあいさつ目標を再設定し、自分の課題に合わせた目標を立て、取り組むことができた。 ・あいさつ委員会の日々のあいさつの呼びかけや、参加型のあいさつ運動に取り組むことで、あいさつに対する意欲が向上した。 ・児童アンケート「地域の人に、あいさつをしたり、返したりしていますか」の項目においては、93.5%の肯定的な回答があり、地域に向けたあいさつの関心の高まりも感じる。	A	・あいさつについては、全校での統一した指導が必要であると思う。 ・気持ちのよいあいさつとはどのようなものかを具体的に理解させ、児童自身が考え実践できるようになるといいと思う。 ・校内や地域での習慣づけが将来の土台となる。粘り強く取り組んでほしい。	【あいさつの定着】 ・気持ちのよいあいさつとは何か、児童に考えさせる機会を設け、全校であいさつに対する課題意識や改善点を共有することで、児童が相互に高め合える取組としていく。 ・引き続き、あいさつ目標の設定やあいさつ運動など保護者や地域を巻き込む活動を発展させていくことで、学校・家庭・地域が一体となってあいさつに取り組むようにする。
			自己肯定感の醸成	・学級活動・児童会活動の充実	・児童アンケート「学校や学級全体のために役に立つことができた」	肯定的評価: 85%以上	79%	80.2%	94.4%	2	・肯定的な回答は、80.2%と、前期末よりは微増した。 ・後期になり、係が変わったり、委員会としての活動が定着することで取組が充実したりしているように感じる。しかし、児童が学級や学校のためになれたという実感が持ちづらいことに原因があると考えられる。 ・係活動や委員会活動の振り返りや評価が、各学級や委員会活動の時間に任せられている部分も原因の一つと考え、全校で自分の役割や貢献に関わる評価の機会を設定する必要があると考える。	B	・学級や学年、全校それぞれの活動後の振り返りが大切である。相互評価の中で、肯定的な評価があると、児童の自己肯定感が高まると思う。 ・児童が自分の役割を実感しながら成長してくれることを願っています。 ・「友だちのために」「地域のために」など、自己評価しやすい言葉を入れることも検討してほしい。	【自己肯定感の醸成】 ・係活動や委員会活動に取り組ませ、その活動に対する振り返りを行うことで、自己の取組に対する意識を向上させる。 ・視覚的に評価するツールを用意することで、肯定的な評価が積み重なっていく意識を高め、自己有用感へつなげる。
健やかな身体の育成	3	自ら安全や体力向上を意識して生活できる子どもの育成	食育の充実	自己目標を意識した食育指導の充実	・残食率 ・児童アンケート「給食の時間が楽しい」「給食を残さず食べている」	6%台 肯定的評価: 80%以上	7.3%	7.47%	81.0%	2	・2回目の完食キャンペーン実施期間中は7月同様に6.17%まで減少した。目標の設定や振り返りを保護者とともに行うことで、意識継続を図った。 ・食べる量や増減の量に個人差があったり、休憩時間の外遊びが十分でないことから、全体的に食事の量が減っていることが考えられる。	B	・食育については、家庭の役割が大きい。学校と家庭との連携をしっかりと行ってほしい。 ・食べるということの大切さを様々な形で指導していくとよいと思う。	【食育についての意識継続】 ・食育については、引き続き学校と家庭との連携を図り、「食べる」ということの大切さを学級指導や保健指導で行い、継続的に取り組んでいく。
			体力の向上	・外遊びの励行 ・固定遊具等を活用した体育授業の工夫 ・体育的行事の充実	・50M走結果 ・児童アンケート「休憩時間外で遊んでいる」「外で遊ぶことが楽しい」	・春季から冬季にかけてのタイムが向上した児童が90%以上 肯定的評価: 90%以上	95.0%	94.0%	94.0%	2	・日常的に体を動かすきっかけになる行事を実施したが、体力向上にはつながらなかった。休憩時間だけでなく、ロング昼休憩など、行事として外遊びができる取り組みを増やし、体を動かす機会を意図的に増やす必要がある。 ・空調設備が整ったことで、体育の授業でも十分に活動量が確保できるようになっていきたい。	B	・教室から運動場への移動時間や児童数の多さなどから難しいこともあると思うが、運動の楽しさを実感できるように手道に取り組むを進めてほしい。 ・限られた時間の中で学校はよく取り組んでいると思う。 ・児童は、遊びの中で自然と体力がつくので休憩時間に進んで外遊びするよう取り組みを進めてほしい。	【体力向上・外遊びの励行】 ・体力向上については、効果的な活動を来年度も引き続き実施する。 ・外遊びの励行に向けて、ロング昼休憩など、行事として外遊びができる取組を増やす。また、委員会活動でも、楽しんで外遊びができる活動を実施していく。
			業務改善の推進	児童と向き合う時間の確保	・学校行事等の精選 ・ネクスト主任層の育成と組織体制強化 ・教職員働きがい意識向上 ・勤務時間外在校時間の軽減	・教職員アンケート「働きがい意識向上」に資する取組状況	肯定的評価: 80%以上	肯定的評価 94.3%	肯定的評価 94.3%	118%	4	・教職員アンケート「働きやすい(やりがいをもって勤務できる)職場づくりが進んでいる」の項目について、前期と同様、肯定的回答は94.3%であり、目標値を大きく上回った。しかし、「まったくあてはまらない」という回答は2.9%(1名)あり、管理職や主任層から各担当へ、仕事量の偏りがないか言葉がけをしていく必要がある。	A	・大規模校で教職員数が多い中で「やりがいをもって仕事ができる割合」が極めて高いことは高く評価できる。 ・孤立してしまう職員がないように注視して、取り組みを進めていただきたい。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
 4...目標を上回って達成
 3...目標どおりに達成
 2...目標をやや下回って達成
 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価
 A...とても適切である
 B...概ね適切である
 C...あまり適切でない
 D...全く適切でない